英語教師のための
基礎講座

個に応じた指導を重視する授業における指導案の書き方

松沢伸二　Matsuzawa Shinji
（新潟大学）

1 はじめに

中学生も1年生2学期になると，学習内容の習熟の程度に個人差が出るようになり，個に応じた指導（differentiation）を重視する必要が生じる。右のページに示したのは，（習熟度別学級編成をしていない）一般クラスでの授業用に，「このように書くと，個に応じた指導がより確実になる」という考えでまとめた指導案の書式である。以下にその意図と書き方を説明する。（なお，1. クラスの実態，2. 本時の位置づけ，3. 本時の目標，は省略してある。）

2 「本指導過程の目標」にコアと発展を書く

授業の目標は一般に，外国語を学習するための能力などが「平均的な学習者（average learner）」を対象に1種類設定される。（筆者は学生時代に，「目標は5段階相対評価で，評定3の生徒を想定して書くように」という指導を受けた。）例えばライティングの領域での目標は，「セリーヌ・ディオンへの手紙（ファンレター）が書ける」のように設定される。

しかし，中学や高校のクラスには外国語の学習が「得意な学習者（more able learner）」が存在する。こうした学習者には上記目標に到達後，さらに高度な目標（「セリーヌ・ディオンを招待するための，交渉内容が書ける」などの発展目標）に取り組ませ，タスクや成果による個に応じた指導を行いたい。

このとき教師は，平均的な学習者と得意な学習者の両者に到達を期待する目標を「コア目標（core objective）」に，得意な学習者にさらに到達を期待する目標を「発展目標（extension objective）」に設定し，それを指導案の「a. 本指導過程の目標」の「コア」と「発展」に分けて書くことで，個に応じた指導をより確実に実施できる。

3 「教師の働きかけ」に4種類の活動を書く

学習者の適性・能力，興味・関心，性格などは実に様々である。そのため一般的なクラスには，先の平均的な学習者と得意な学習者に加え，外国語の学習が「苦手な学習者（slow learner）」も存在する。外国語教育で個に応じた指導を重視する授業はしたがって，この3種類の学習者それぞれに適切な活動に取り組ませて，各学習者の習得レベルを最大限に引き上げようとするものである。

これを授業の指導過程で考えると，Warm-up，Review，Presentation，Practice，Production までは，クラス全員がコア目標に到達するために，同一の「コア活動（core activity）」に取り組む。続いて，Production の後の活動として，平均的／得意／苦手な学習者が，Production の目標の到達の程度に応じて，さらに異なる目標に到達するため，各自が別々の課題に取り組むことなどが考えられる。

平均的な学習者はこの時，練習を繰り返して習熟を強固にする「補強活動（reinforcement activity）」に取り組む。これには Production のコア活動と同様の活動（「別の歌手にファンレターが書ける」など）を用いる。得意な学習者は一方，発展目標に到達するための「発展活動（extension activity）」に取り組む。これは Production でのコア活動より高度な活動（先の「交渉内容が書ける」など）である。最後に苦手な学習者の場合は，Production の活動などでコア目標に到達できなかった際の「治療活動（remedial activity）」に取り組む。この活動は，コア活動などを成功裏に遂行するために前提となる知識や技能を補充するもので，例えば「ファンレターの構成を再確認する」や「ファンレターによく用いられる表現が書ける」などが考えられる。

（1. クラスの実態，2. 本時の位置づけ，3. 本時の目標，は省略してある。）

４．本時の展開

指導過程１：................（　　分）

a. 本指導過程の目標：

コア	発展
・....................	・....................
・....................	・....................

b. 教師の指導の評価観点：....................

c. 生徒の学習の評価観点：....................

d. 指導手順：

教師の働きかけ	生徒の応答／活動	留意点
・[コア／発展／補強／治療]	・....................	....
....	....	....
・[コア／発展／補強／治療]	・....................	....
....	....	....
・[コア／発展／補強／治療]	・....................	....
～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～	～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～	～～～～～～

e. 板書計画：....................

f. 配布ハンドアウト：....................

～～～

５．家庭学習

a. コア：....................

b. 発展：....................

個に応じた指導は Practice の際など，授業のどの場面でも行えるから，「d. 指導手順」の「教師の働きかけ」で，コア／発展／補強／治療活動のどれを行うかを○で囲んで示し，「生徒の応答／活動」欄と合わせて活動を説明する。こうすることで，全体指導に加えて個に応じた指導を行う時間を確保できる。

4 「家庭学習」にもコアと発展を書く

個に応じた指導は家庭学習として課す課題にも及ぶ必要がある。これを指導案に明示して実現するため，「5. 家庭学習」に「コア宿題（core homework）」と「発展宿題（extension homework）」の２種類を示し，学習者の習熟の程度に応じてコア宿題のみ，またはコア宿題と発展宿題の両方に取り組ませたい。（例えば，文法事項の復習を家庭学習に課す場合は，前者に教師作成による「基本文法プリント」，後者に同「発展文法プリント」などと書いて示す。）

5 おわりに

個に応じた指導は，「全ての学習者の可能性を最大限に実現する」という教育の機会均等の理念に基づく。これまで我が国の英語教育は，個人差への対応に一貫した方針を欠き，グラフに表すとフタコブラクダ型になる学力の二極化現象を生んできた。今後は必要に応じて，治療／補強／発展活動を指導案に明示的に書き込み，個に応じた指導を重視する授業を不断に実施して, この二極化現象を解消したい。（本稿中の目標・宿題例は，新潟県立村上中等教育学校（2008）『Super English Language High School 実践の記録　平成 17 年度～平成 19 年度』より，同校英語科が開発した「単元カリキュラム」（pp. 81-86）の例を一部引用させていただいた。）